

# 第37回 協会賞決まる

# 真木

## 第 205 号

〒260-0852  
千葉市中央区青葉町  
1274-14  
加藤峰子方  
千葉県俳句作家協会  
事務局  
TEL 043-225-7115

〒276-0042  
八千代市ゆりのき台3-4-1101  
前北かおる方  
「真木」編集部  
TEL 090-4363-3501

## 目 次

第三十七回協会賞決まる	1
新緑交流俳句会のご案内	1
協会賞受賞作品	2
新春交流会・第八回千葉県俳句大賞贈賞式	4
俳句会作品集、俳句短冊展『早春賦』	5
千葉県俳壇ニュース、結社賞、会員著書紹介	6
新入会員一句、基金御礼	6
受贈誌より、ひろば、事務局日誌	7

最終選考会は二月十二日、千葉市のホテルポルトプラザちばで開催。選考委員は能村研三、増成栗人、秋尾敏、北川昭久、村上喜代子、石井紀美子、高橋健文、加藤峰子、染谷卓の九名。選考基準を確認後、予備審査の結果を参考に活発な議論が交わされ、別表の通り決定した。応募作品は次の二十五篇（到着順・敬称略）。

「将門の頬骨」滝口美智子、「私らに」安部由美子、「梨街道」、平山武彦、「しゆんしゆんと」祐森司、「水」山内洋光、「天の橋立」能美昌二郎、「言挙げ」宮崎高根、「鳥海山」奥井あき、「白木苑」西嶋久美子、「白樺派」相川健、「除夜の鐘」有田川あき、「街騒」平野みち代、「追走」高橋敏夫、「寒鳥」飯田協子、「起上り小法師」小見恭子、「陸奥から南部へ」大久保文夫、「花火」斉藤信一、「盆帰省」布施和子、「牡丹供養」齊藤陽子、「逆しま」浪岡玄、「老いの豊かさ」川南英隆、「知床旅情」田邑利宏、「雨垂」古谷誠司、「縹渺と」栗坪和子、「犀の角」木嶋純子。

予備審査の結果「犀の角」「白樺派」「雨垂」「縹渺と」「水」「将門の頬骨」「しゆんしゆんと」「知床旅情」「街騒」「逆しま」「起上り小法師」「陸奥から南部へ」「鳥海山」「牡丹供養」が候補となり、そこで最高点だった「犀の角」が、質的に高く、素直で好感のもてる句群であるとの評価で協会賞となった。

次席の選考は難しい選択となったが、句に勢いと品格があり、素材に対する造詣も深いということで「縹渺と」が選ばれた。

「雨垂」は対象をよく捉え、印象的で巧みな句が揃っているとして佳作①となり、「白樺派」は潤いあるやわらかな詩情が評価されて佳作②となった。「水」は二委員が一位に推し、句材を水に絞って生き生きと表現していると評価されたが、わずかな差で佳作をのがした。

協会賞募集にあたり、珠玉の作品をお寄せくださった皆様へエールを送りたい。来期も奮って力作を応募して頂きたい。（担当理事 染谷卓・鎌田光恵記）

## 二〇二三年度千葉県俳句作家協会 通常総会・協会賞贈賞式・新緑交流会のご案内

当協会の通常総会と協会賞贈賞式、新緑交流会を左記の通り開催します。皆さまお誘い合わせの上、ご出席ください。

### 記

日時 五月二十一日（日）受付開始十二時半より  
会場 ホテルポルトプラザちば 二階「ルビーの間」  
千葉県中央区千葉港八十五 電話〇四三―二四七―七二二―

J R 京葉線、千葉都市モノレール千葉みなと駅より徒歩一分  
会場整理費 千円（受付で徴収）

### 【通常総会】十三時より

議題 1 二〇二三年度事業報告及び決算報告

2 二〇二三年度事業計画（案）及び予算（案）他

3 その他

※別途送付の葉書で出欠をお知らせください。

### 【第三十七回協会賞贈賞式】十四時十分より

①第七回千葉県俳句大賞

受賞者 木嶋 純子氏 栗坪 和子氏 古谷 誠司氏 相川 健氏

### 【新緑交流俳句会】十五時より

俳句会 会員各位に案内送付済

事前投句二句 投句料千円

二〇二三年四月吉日

千葉県俳句作家協会

会長 能村研三

以上



協 会 賞

木 嶋 純 子 (武蔵野市)

「犀の角」

水菜ぎぶぎぶ気張らずに気負はずに  
 赤も黄も緑ものどか熊のグミ  
 草青むマイムマイムの輪の中に  
 木の芽時どこ向くあっち向いてほい  
 春星や先の欠けたる犀の角  
 朧夜のゴルゴンゾーラ呪文めく  
 手品師のかぎす紙幣や月朧  
 花曇とんと揃へる紙の束  
 桜まじ輸入雑貨に五カ国語  
 離島へと向かふ立夏の飛行場  
 定まらぬ風のなごりの麦を刈る  
 水馬の水輪に雨の降り出して  
 手作りの白玉ひとつづつに臍  
 南国の校門に立つ氷菓売り  
 目を凝らす八月の間違ひ探し  
 十三夜夫婦まかなふ竹定食  
 芋煮会年季の入る千寿鍋  
 先客を真似てボルシチ頼む秋  
 極月の隙をつきくる静電気  
 風紋めくアラビア文字や冬銀河

第37回 協会賞入賞作品審査表

(応募作品 25篇)

(上段が順位・下段が得点)

番号	表 題	成 績	審 査 員 査 定 順 位							得点	作 者 名	住 所	所 属 結 社
10	白樺派	佳作2	5 1	2 4		1 5		3 3	13	相川 健	我孫子市	鴻	
23	雨垂	佳作1	1 5	1 5				3 3	13	古谷 誠司	千葉市	森の座 群青	
24	縹渺と	次 席		4 2	2 4		1 5	4 2	13	栗坪 和子	市川市	沖	
25	犀の角	協会賞	2 4	3 3	3 3	4 2	5 1	2 4	2 4	25	木嶋 純子	武蔵野市	いには
審 査 員 (50音順)			秋尾 敏	石井紀美子	加藤 峰子	北川 昭久	染谷 卓	高橋 健文	能村 研三	増成 栗人	村上喜代子	【得点】 1位=5点 2位=4点 3位=3点 4位=2点 5位=1点	

## 協会賞 次席

縹渺と

栗坪 和子

焚火して遊覧船を待つ波止場  
 冬波へ突き出る棧橋渡れよと  
 托生の紅葉舟なり乗りてみむ  
 まなかひに光の斜線冬かもめ  
 冬鷗よりそひてみてくれにけり  
 熟田津に潮待つごとく鯨待つ  
 松島の松縹渺と冬の航  
 冬空につかまつてゐる松二本  
 波をもてゆへる島々神渡  
 冬萌や明治三陸津波の碑  
 禅寺に牡丹焚く火のほんのりと  
 牡丹焚く淋しきときは淋しき字  
 得度式少年に降る初霰  
 丹頂や禅寺の鴟尾のけぞりて  
 寒さとはしづかなるもの瑞巖寺  
 銀屏に寄るころあり松と月  
 冬北斗風尖りくる海の宿  
 極月や壁にピエロの紅き唇  
 伝言を笹子に託す修司かな  
 百千鳥寺山修司もゐるらしく

## 協会賞 佳作1

雨垂

古谷 誠二

沖泳ぐなり椰子の木を日時計に  
 斜交ひに街を消しゆく白雨かな  
 触角が湿るだらうに雨後の蟻  
 うどん粉の爪に乾びし夜釣かな  
 耳聴くなる落蟬の多き夜は  
 足下より富士の量感霧ぶすま  
 鷺群るる一樹の影や水の秋  
 舷梯を離れて陸へ秋の蝶  
 夕鴉の崖に津波の標かな  
 秋の日やうつすらと凶水みくじ  
 競走馬なほ生かさるゝ花野かな  
 ふはふはと行き交ふかうべ芒原  
 秋日さす砲身の瑠璃いよ濃し  
 城壁に水面を譲り破蓮  
 足もとへ洗車機の泡冬めける  
 をちこちの募集ピラ読む懐手  
 煙突は明治の煉瓦冬ぬくし  
 白菜の甑底ひに透き通る  
 引く浮子の輪の真円や十二月  
 十二月八日茨線の雨垂

## 協会賞 佳作2

白樺派

相川 健

淡雪の朝鳥ご糸のほの白く  
 細波のうろこ光りに風は春  
 東風吹けり一直線の鴨の水尾  
 伸びよ伸びよ角組む蘆よみどり児よ  
 摘草を母にさし出す小さき手  
 魴を挿す漢の背に日の温み  
 桜散る沼辺に立ちて虚子のこと  
 光一閃かはせみは水面蹴る  
 ほの青き光ゲを宿して鷺の立つ  
 ポコ・ア・ポコ尺蠖虫は尺をとる  
 払うても払うても湧く蠨蠸は  
 一枚の墨絵となりて沼は秋  
 白樺派文人村の曼珠沙華  
 朝露の光散りばふ散歩道  
 花薄ハモニカの音が風に乗る  
 直哉忌の水辺にしばし月を待つ  
 鐘の音の暮色に染みて赤とんぼ  
 水鏡して枯葦のさはさはと  
 しるがねの光の中を鳩の影  
 沼小春スローライフに慣れし日々

## 新春交流会・第八回千葉県俳句大賞贈賞式

### 【贈賞式】

第八回千葉県俳句大賞贈賞式は、令和五年二月十二日午後一時から開催された。新型コロナウイルス感染症はいまだ収束しないものの、秋尾副会長の開会の言葉で幕は開けられた。

司会は、石井理事長。能村会長の挨拶の後、村上担当部長から選考過程の説明があった。今回は、十一冊の句集を対象に審議され、大賞は三枝かずを氏の『梅が香』、準賞は藤岡貞夫氏の『宇宙』と、それぞれ結果が発表された。三枝氏は体調不良により欠席であったが、



挨拶にたつ能村会長

能村会長と増成副会長の祝辞の中で、電話で交わした言葉がお元気そうであったこと、ご夫婦で出された句集であることなどが紹介された。

北川副会長の祝辞の後、藤岡氏から受賞者の言葉をいただき、句集の名のとおり「宇宙のような広大無辺な俳句づくりをこれからも続けていきたい」という力強い言葉で締めくくられた。

俳人協会、現代俳句協会、日本伝統俳句協会の三協会の俳人たちが競い、称え合う千葉県俳句大賞。これからもぜひ、挑戦していただきたい。  
(稗田寿明)



大賞の三枝氏には後刻贈呈を行った

### 【新春交流俳句会(文音)】

新春交流俳句会は、今年も文音形式で行われた。高橋健文副理事長の司会で進められ、理事の選が前北かおる理事、加藤峰子事務局長から披露された。点盛は、平岡育也、稗田寿明、高橋宗史、三浦侃、藤田考成、祐森司、清水佑実子の各理事が担当した。増成栗人、北川昭久、秋尾敏副会長から講評があり、その後高橋健文副理事長から成績発表が行われた。最後に、能村研三会長から講評と挨拶があり、お開きとなった。



準賞の藤岡貞夫氏

### 俳句会作品集

#### 【特選句】

能村研三会長特選

枯れ蓮屈折からの出発点

野口 京子

増成栗人副会長特選

思ふこと深くありけり竜の玉

石橋みちこ

秋尾敏副会長特選

浮寝鳥ふかぶかと湖温める

祐 森司

北川昭久副会長特選

今日ひとつ明日ひとつの年用意

豊島 京子

石井紀美子理事長特選

枯れ蓮屈折からの出発点

野口 京子

高橋健文副理事長特選

春を待つ肺は小さな森である

小宮 富子

加藤峰子事務局長特選

小春日の声聞くように文届く

永妻 和子

川合憲子顧問特選

暁闇の万物沈思霜の声

浦野 五郎

#### 【入賞者と代表作】

(二句合計点数、○数字は順位、一句のみ記す)

① 眼裏は記憶の住処ふゆぎくら

11点 茶谷 静子

② しぐるるや語らふやうに書く便り

9点 豊島 京子

③ 表裏分からぬままに海風突く

9点 能村 研三

④ 静けさといふ音ありぬ雪ばんば

8点 原 瞳子

⑤ 黄葉降るひかり奏でるやうに降る

8点 谷本 元子

⑥ 春を待つ肺は小さな森である

6点 小宮 富子

⑦ 浮寝鳥ふかぶかと湖温める

6点 祐 森司

⑧ 風音も空も素顔や枯木山

6点 川合 憲子

⑨ あらたまの丸にはじまる絵描き歌

6点 村上喜代子

⑩ 枯れ蓮屈折からの出発点

5点 野口 京子

⑪ 寒椿地に落ちてより饒舌に

5点 石橋みちこ

⑫ 青春をはみ出す夜のポインセチア

5点 石井紀美子

⑬ 逆光の暗みへ隠る鎌鼬

4点 澤田 英紀

⑭ 春一番葉書の文字の撥ぬる癖

4点 本池美佐子

⑮ 七等といふ福引の甘きもの

4点 飯田 晴

⑯ 栗色の髪を束ねて弓始

3点 金子まもる

⑰ 干菜吊る山国は軒深くして

3点 北村 操

⑱ 歩行者天国サンタクロースふたり

3点 中山 和子

### 俳句短冊展『早春賦』

千葉県俳句作家協会では、令和五年二月四日（十九日）にかけて青葉の森芸術文化ホールで俳句短冊展を実施した。これは、同ホールにて開催された「みんなで能舞台に触れるweek」に合わせて行われた企画で、協会が参加するのは昨年に続いてこれが二回目。俳句の短冊は風景写真とともに展示され、期間中多くの来場者が足を留めて鑑賞した。以下に、展示された作品の一部を掲載する。

浅春の声ゆき渡る能舞台  
振り向けば椿の落ちただけのこと  
梅三分打球は雲に包まれて  
公園の漫ろ歩きや梅は「加賀」  
枝先に春の呼び鈴ふくらみぬ  
たぶん饒舌蝶に声ありとせば  
馬駆けて大地に春の鼓動かな

能村 研三

増成 栗人

秋尾 敏

北川 昭久

石井紀美子

高橋 健文

加藤 峰子



会場風景



# 千葉県俳壇ニュース

## 結社賞

いには同人賞・いには賞

第十三回いには同人賞 辻忠樹

父として話聞く夜やぬくめ酒

第十七回いには賞 後藤善雄

獺祭置いてけ堀の話など

第十七回いには賞 大沢きみい

成人の日の花結び蝶文庫

(「いには」二月号より)

令和四年度鳴賞・鳴新人賞

鳴賞 三木千代

引き受けて汗の止まらぬ終電車

鳴新人賞 みたにきみ

掛けくれしことば芙蓉の花のごと

第二十九回鳳声賞・百鳥賞

鳳声賞 「色鳥来」 岩谷塵外

林檎挽ぐ故山の空の底ひなき

鳳声賞 「蓬摘む」 谷口裕

弾き初めは出勤前の駅ピアノ

百鳥賞 「秋の声」 井上園子

虫すだく中の一つを聞いてをり

忠樹

善雄

きみい

千代

千代

きみ

千代

塵外

裕

園子

## 会員著書紹介

●句集『秋へ書く手紙』頓所友枝著

著者は、「沖」同人で平成二十五年に珊瑚賞受賞している。本書は、同年刊行の『冬の金魚』以来となる第二句集。「あとがき」には、交通事故に遭遇し、療養を続けていたご子息を平成二十八年に亡くされたこと記されている。ご子息への思いを詠われた俳句に心打たれる。

知らぬ子の走るに泣けて運動会

初時雨ボク治りますかの文字消えず

円陣を組んで噴水立ち上がる

ブルーブラックインク秋へ書く手紙

(令和五年三月発行・ふらんす堂)

## 千葉県俳句作家協会

### 運営基金のお願い

千葉県俳句作家協会のさらなる発展のため、運営基金を募集致します。皆様の積極的なご協力をお願い申し上げます。

◇一口 二千元

◇送付先 千葉県俳句作家協会基金口

郵便振替

〇〇一四〇一〇一七九二〇八三

基金にご協力頂いた方のご芳名を会報「真木」に記し領収に替えさせていただきます。

## 新入会員一句

帽子屋に帽子あふるる春隣  
空白の時綴ること花吹雪  
田邑 利宏  
西嶋久美子

## 基金御礼 (令和五年二月六日以降)

堀合 優子	高橋 宗史	染谷 卓
栗原 公子	高橋 敏夫	広瀬 敬雄
清水佑実子	原 瞳子	実籾 繁
武田 和郎	町山 公孝	金子まもる
志田佐代子	東 國人	三枝 青雲
佐々木 群	小倉 英男	羽矢 真人
金子 敏	金澤 恵子	古居 芳恵
小形 博子	村田 満枝	下鉢 清子
齋藤 陽子	井原 美鳥	増田 良子
金井 照子	本池美佐子	中西 恒弘
藤埜まさ志	伊藤 隆	谷口 摩耶
西野 桂子	河合 憲子	白鳥 秀幸
菊池 光子	石井紀美子	中川 素子
大森 慶子	平野みち代	奥村 利夫
広上 愛子	山崎 政江	頓所 友枝
歌代 美遥	白井 淳子	高木 一恵
小出美千代		

(令和五年三月三日現在：二〇六口、二二万二千元)

受贈誌より

あびこ(三六四号)  
 いまも遠くに母校より見る秋の水 染谷 卓  
 いには(三月号)  
 病む一生うべなふ一書雪兔 村上喜代子  
 沖(三月号)  
 春隣師系はなべてベレー帽 能村 研三  
 音信(三月号)  
 放水や天に虹画く出初式 白鳥紅星子  
 響焰(三月号)  
 裸木のみな宙を指し天の声 米田 規子  
 草の実(二月号)  
 水仙花わが青春はナルシスト 逸見 真三  
 鴻(三月号)  
 手を揉んで冬百日の寺にゐる 増成 栗人

好日(三月号)  
 独語とは真二つに割る冬林檎 高橋 健文  
 鳴(三月号)  
 冬浜に朽ち木ロドリゴ漂着地 加藤 峰子  
 軸(三月号)  
 マスク取る雲に足場を組み上げて 秋尾 敏  
 瀬祭(三月号)  
 白梅や凜とありたき卒寿得て 本田 攝子  
 野火(三月号)  
 寒禽の影が一瞬地を走る 菅野 孝夫  
 初蝶(三月号)  
 百歳の母へ参らすお年玉 中山 和子  
 万象(三月号)  
 連獅子の口かつかつと初芝居 江見 悦子  
 百鳥(三月号)  
 冬田道芭蕉と曾良の旅思ふ 大串 章

ひろば

県内俳句協会・俳句連盟紹介  
柏市俳句連盟

昭和五十七年十月、市内の十六句会が結集し、柏市俳句会連盟が発足した。それまで俳句大会などは昭和四年設立の柏葉句会が担っていたが、以降は連盟の主催主管として行われるようになった。初代会長には佐々倉水山人、幹事長には高橋秋月が就任した。後に名称は柏市俳句連盟と改称され、以来四十数年にわたりその活動は営々と引き継がれている。

主な活動は春の吟行会、今年度第六十回を迎える八月の柏市民俳句大会、十一月の柏市文化祭俳句大会である。コロナ禍の影響でこ

の数年は中止や通信大会に代わることを余儀なくされたが例年であれば市民大会や文化祭大会は百名を越す参加者で盛況となる。俳句愛好者の大会参加は連盟の活動の源であり、近隣の野田俳句連盟や流山俳句協会の協力にも支えられている。

また大会の他に「柏市俳句連盟会報」が年一回発行されており、今年度は第四十号となる。会報は各句会の紹介と全会員の一人一句を網羅し、連盟の一年間の活動がまとめられている。

加盟団体や会員の減少が課題ではあるが、発足当時から大切にされていることは会員相互の親睦と俳句の研鑽の場を持つことである。

(柏市俳句連盟事務局長 茶谷静子)

ろんど(三月号)

水鳥の景の一つに加はりぬ

すずき巴里

事務局日誌

◆第五回理事会(出席者21名)

日時 令和5年2月12日(日)  
 会場 ホテルポートプラザちば 二階 パール  
 議事 1 令和4年度新春交流会について  
 2 第8回千葉俳句大賞について  
 3 令和5年度新緑交流会について  
 4 第65回千葉俳句大会について  
 5 令和5年度秋季吟行会について  
 6 千葉の森公園芸術文化ホール短冊展について

- 7 会報「真木」二〇五号について
- 8 その他 事務局報告

会員異動

新会員

田邑 利宏(流山市)、西嶋 久美子(柏市)

編集後記

前号の「事務局日誌」に掲載しました第四回理事会の日時が誤っておりました。正しくは、以下の通りです。謹んでお詫び申し上げます。(前北)

日時 令和4年12月17日(日)

プラザ菜の花 四階楨2


歩いて俳句

創刊 鳥居三朗  
師系 今井杏太郎

主宰 飯田 晴

雲発行所

〒276-0023 八千代市勝田台一七七一  
D-10005  
電話 & FAX 0477-4877-7115



心を満たす俳句

「鴻」俳句会

主宰 増成栗人  
師系 角川源義 吉田鴻司

発行所 〒271-0087 松戸市三矢小台二四一六谷口方  
電話 0477-3631-4508  
FAX 0477-3631-5110

◆誌代/年間 二一,000円



月刊俳誌 鷗 (しぎ)

鳴俳句会  
代表 加藤 峰子  
創刊 田中 午次郎  
再刊 伊藤 白潮

誌代 1年 12,000円  
(見本誌 500円)

〒260-0852 千葉市中央区青葉町 1274-14 加藤方  
電話・FAX 043-225-7115  
http://shigi-haikukai.com/

自然と人間の一体化を目指す  
月刊 好日

創刊 阿部 笈人  
主宰 高橋 健文

誌代 一年 二二,000円(送料共)

〒270-0007 千葉県松戸市中金杉一ノ七八  
電話 0477-7131-6495  
振替 002501141278

好日俳句会

月刊俳誌 沖 (おき)

俳句ルネッサンス

主宰 能村 研三

新会員募集中

誌代 1年/15,600円  
半年/7,800円  
見本誌 1冊 800円


沖発行所  
〒272-0021 市川市八幡6-16-19  
TEL 047-334-4975  
FAX 047-333-3051  
振替 00170-6-161552

創刊50周年

軸俳句会

主宰 秋尾 敏

〒278-0005 野田市宮崎95-4  
電話 04-7122-3921  
Fax 050-5552-9110  
84円切手3枚で見本誌贈呈



俳誌 あびこ

誌代(隔月刊) 一年 四〇〇〇円

〒270-1138 我孫子市下ヶ戸二八五  
TEL 0477-2182-4441

郵振替 00100141189074

あびこ俳句同好会

一度きりの今を楽しむ

いには INIWA

主宰 村上喜代子

新会員歓迎・添削指導します。

誌代 1年 12,000円(月刊)  
半年 6,000円 見本誌 500円

—いには俳句会—

〒276-0036 千葉県八千代市高津390-211  
電話 047-458-1919  
Fax 047-458-1895  
振替 00280-9-131469  
HP検索:いには俳句会

現代俳句同人誌 遊牧

代表 塩野谷 仁

同人費 一年 二〇〇〇〇円  
誌友費 一年 六〇〇〇円

〒273-0033 船橋市本郷町五〇七一-二三〇七

電話 0477-3361-081  
FAX 0477-3257-7338

遊牧俳句会